

試 験 地	受 検 種 別	受 験 番 号						氏 名

受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。

本日の受験地 _____ 仮受験番号 仮一 _____

平成 18 年度

2 級建築施工管理技術検定試験

学科試験問題

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は表紙を入れて 34 ページです。
2. 試験時間は、10 時 30 分から 13 時です。
3. 問題の解答は、受検種別に従って指定されている問題（○印）を解答して下さい。

受検種別	イ. 全受検種別共通	ロ. 「建築」「躯体」	ハ. 「建築」「仕上げ」	二. 「躯体」	ホ. 「仕上げ」
「建築」	○	○	○		
「躯体」	○	○		○	
「仕上げ」	○		○		○

イ. 全受検種別共通（全員が解答）

- ・〔No. 1〕～〔No. 14〕までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
- ・〔No. 15〕～〔No. 17〕までの 3 問題は、全問題解答してください。
- ・〔No. 18〕～〔No. 25〕までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
- ・〔No. 26〕～〔No. 35〕までの 10 問題は、全問題解答してください。

ロ. 「建築」「躯体」

- ・〔No. 36〕～〔No. 50〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

ハ. 「建築」「仕上げ」

- ・〔No. 51〕～〔No. 65〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

二. 「躯体」

- ・〔No. 66〕～〔No. 80〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

ホ. 「仕上げ」

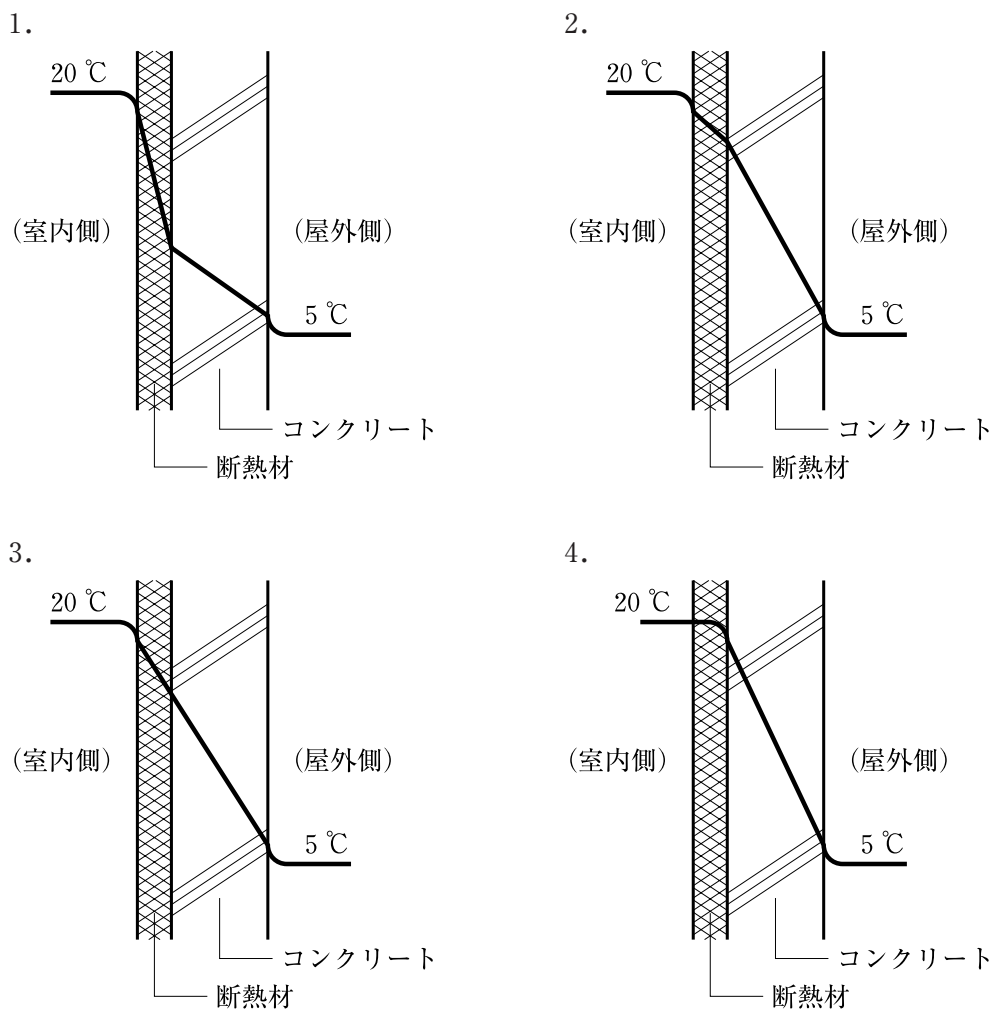
- ・〔No. 81〕～〔No. 95〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

4. 選択問題は、解答数が選択数を超えた場合、減点となります。
5. 解答は、別の解答用紙に、〔HB〕の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
それ以外のボールペン・サインペン・色鉛筆などを使用した場合は、採点されません。
6. 問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を解答用紙のマーク例にしたがって塗りつぶしてください。
7. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
8. 解答用紙は、雑書きしたり、よごしたり、折り曲げたりしないでください。
9. この試験問題用紙は、学科試験の試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者は持ち帰ることができます。途中退席者や希望しない方の試験問題用紙は、回収します。

イ. 全受検種別共通（全員が解答）

※ 問題番号〔No. 1〕～〔No. 14〕までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

〔No. 1〕 定常状態における壁体の温度勾配を示す図として、**適当なもの**はどれか。



〔No. 2〕 採光又は照明に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 全昼光は、直射光と天空光を合わせたものである。
2. 昼光率とは、室内のある水平面の照度と、屋外の全天空照度との比率をいう。
3. 点光源による照度は、光源からの距離に反比例する。
4. 直接照明は、間接照明よりも陰影が濃くなる。

〔No. 3〕 色に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 色相の異なった色を並べると、互いに反発しあい色相が離れた色に見える。
2. 色の膨張や収縮の感覚は、一般に、明度が低いほど膨張して見える。
3. 補色を並べると、互いに強調しあい、あざやかさが増して見える。
4. 同じ色でもその面積が大きいほど、明るく、あざやかさが増して見える。

〔No. 4〕 木構造における接合金物とその用途の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 短ざく金物 ————— 1・2階管柱の連結
2. かな折れ金物 ————— 通し柱と胴差の取合い
3. 羽子板ボルト ————— 柱と筋かいの接合
4. 火打金物 ————— 小屋組の隅角部の補強

〔No. 5〕 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 耐震壁は、水平せん断力に対して有効である。
2. かぶり厚さは、耐火性、耐久性を確保するうえで重要である。
3. 柱、梁の主筋には、引張応力は生じるが圧縮応力は生じない。
4. スラブ厚が小さくなると、たわみや振動障害を生じやすい。

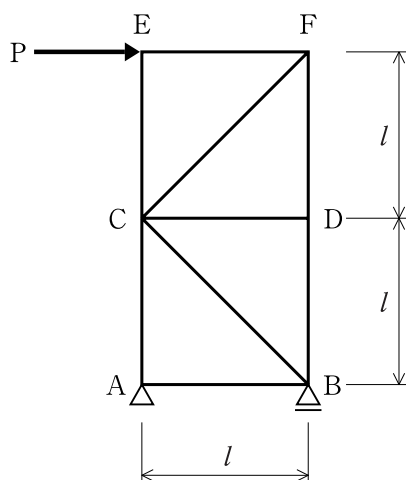
〔No. 6〕 鉄筋コンクリート構造と比較した鉄骨構造の一般的な特色に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鋼材は強くて粘りがあるため、鉄骨構造は変形能力が大きい。
2. 自重が小さいため、建築物に加わる地震力が小さくなる。
3. 固定荷重に対する積載荷重の比率が大きい。
4. 鋼材は不燃材料であるから、鉄骨構造の骨組は十分な耐火性能を有する。

〔No. 7〕 基礎構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

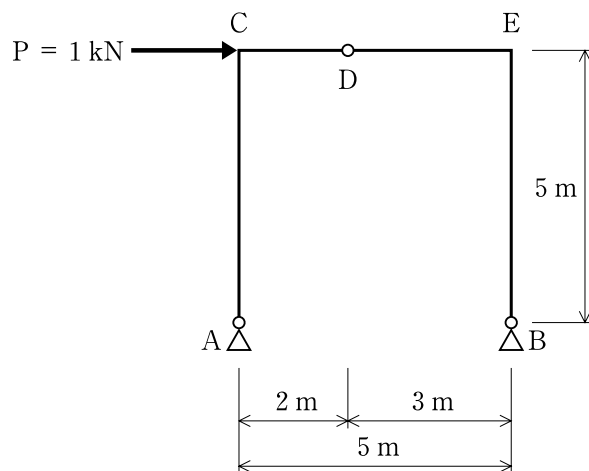
1. 独立フーチング基礎は、一般に梁で連結しない。
2. 複合フーチング基礎は、隣接する柱間隔が狭い場合などに用いられる。
3. 杭基礎は、一般に直接基礎で建物自体の荷重を支えられない場合に用いられる。
4. 支持杭は、主にその杭の先端に接する地盤の抵抗で支える。

〔No. 8〕 図に示すトラスのE点に水平荷重Pが作用するとき、部材に生じる軸力に関する記述として、不適当なものはどれか。



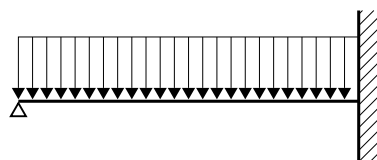
1. 部材ABに生じる軸力は引張力である。
2. 部材BCに生じる軸力は引張力である。
3. 部材CFに生じる軸力は引張力である。
4. 部材BDに生じる軸力は圧縮力である。

〔No. 9〕 図に示すラーメンのC点に水平荷重Pが作用するとき、支点Aの水平反力の大きさとして、正しいものはどれか。



1. 0.2 kN
2. 0.4 kN
3. 0.5 kN
4. 0.6 kN

〔No. 10〕 図に示す等分布荷重を受ける不静定梁の曲げモーメント図として、正しいものはどれか。ただし、曲げモーメントは材の引張側に描くものとする。



- | | |
|-----------|-----------|
| <p>1.</p> | <p>2.</p> |
| <p>3.</p> | <p>4.</p> |

〔No. 11〕 コンクリートに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリートの単位水量が多いと、ひび割れが起こりやすい。
2. 熱膨張率は、鉄筋とほぼ同じである。
3. 水セメント比が大きいほど、コンクリートの圧縮強度は大きくなる。
4. アルカリ性であるので、コンクリート中の鉄筋が錆びるのを防ぐ。

〔No. 12〕 木材の一般的な性質に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 節のある木材の引張強度は、節のないものより小さい。
2. 木材の熱伝導率は、密度の小さいものほど小さい。
3. 辺材は、心材に比べて乾燥にともなう収縮が小さい。
4. 繊維に直交する方向の圧縮強度は、繊維方向の圧縮強度より小さい。

〔No. 13〕 サッシの性能に関する用語とその説明の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 耐震性 ————— 地震及び震動によって生じる面内変形に追随し得る程度
2. 耐風圧性 ————— 面内力及び面外力に耐える程度
3. 気密性 ————— 圧力差によって生じる空気のもれを防ぐ程度
4. 水密性 ————— 圧力差によって生じる建具内側への雨水などの侵入を防ぐ程度

〔No. 14〕 防水材料に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アスファルトルーフィングは、有機天然繊維を主原料とした原紙にアスファルトを浸透させたものである。
2. 砂付あなあきアスファルトルーフィングは、防水層と下地を密着するために用いるルーフィングである。
3. 合成高分子系ルーフィングシートは、シート防水に用いられ、非歩行用や軽歩行用がある。
4. ウレタンゴム系の塗膜防水材は、屋根やバルコニーの防水に用いられる。

※ 問題番号〔No. 15〕～〔No. 17〕までの3問題は、全問題解答してください。

〔No. 15〕 測量に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

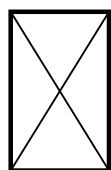
1. 水準測量は、地表面の高低差を求める測量である。
2. 距離測量は、巻尺、光波測距儀などの機器を用いて2点間の距離を求める測量である。
3. 平板測量は、トランシットと標尺などを使用し、水平距離と高低差を同時に求め、標高と平面位置を算出する測量である。
4. トラバース測量は、施工区域内に測点を配置し、その測点間の角度と距離を測定して各点の位置を求める測量である。

〔No. 16〕 給排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 水道直結直圧方式は、水圧が大きすぎて戸建て住宅の給水には採用できない。
2. 排水管には、排水トラップの封水切れを防止するために、通気管を設ける。
3. 水系の消火設備には、屋内消火栓設備、泡消火設備、スプリンクラー設備などがある。
4. 合併処理式のし尿浄化槽では、汚水と、洗面所や台所からの雑排水を処理する。

〔No. 17〕 日本工業規格（JIS）の建築製図通則に定められた材料構造表示記号と表示事項の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1.



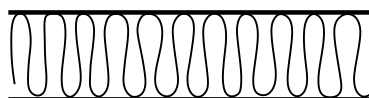
————— 構造材（木材）

2.



————— 地盤

3.



————— 畳

4.



————— 鉄筋コンクリート

※ 問題番号〔No. 18〕～〔No. 25〕までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

〔No. 18〕 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築主は、建築士でなければ設計できない建築物の工事をする場合、建築士である工事監理者を定めなければならない。
2. 建築基準法令の規定に違反した建築物については、その工事の請負人は特定行政庁から工事の施工の停止の命令を受けることがある。
3. 建築基準法の規定は、文化財保護法により国宝や重要文化財などに指定された建築物には適用されない。
4. 建築物の工事が完了した場合には、工事施工者はその旨を建築主事に届け出なければならない。

〔No. 19〕 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 容積率とは、建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合をいう。
2. 容積率の算定の場合、自動車車庫の用途に供する部分の床面積については、その面積にかかわらず、延べ面積に算入しない。
3. 建ぺい率とは、建築物の建築面積（同一敷地内に2以上の建築物がある場合は、その建築面積の合計）の敷地面積に対する割合をいう。
4. 床面積の算定は、建築物の各階又はその一部で壁その他の区画の中心線で囲まれた部分の水平投影面積による。

〔No. 20〕 建設業の許可に関する次の文章中、 に当てはまる語句の組合せとして、「建設業法」上、正しいものはどれか。

「発注者から直接建築一式工事を請け負った元請負人が、当該工事を施工するために締結した下請契約における請負金額の総額が イ 以上となるものを施工しようとするときは、 ロ の許可を取得しなければならない。」

- | | イ | ロ |
|----|---------|-------|
| 1. | 4,500万円 | 指定建設業 |
| 2. | 8,000万円 | 指定建設業 |
| 3. | 4,500万円 | 特定建設業 |
| 4. | 8,000万円 | 特定建設業 |

〔No. 21〕 工事現場における技術者の設置に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設業者は、発注者から 2,500 万円で請け負った建設工事を施工するときは、主任技術者を置かなければならない。
2. 公共性のある工作物に関する重要な工事で政令で定めるものについては、主任技術者又は監理技術者は、工事現場ごとに、専任の者でなければならない。
3. 工事現場における建設工事の施工に従事する者は、主任技術者又は監理技術者がその職務として行う指導に従わなければならない。
4. 建設業者は、下請負人として建設工事を施工する場合にも、監理技術者を置かなければならない。

〔No. 22〕 次の記述のうち、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 使用者は、労働者の国籍、信条又は社会的身分を理由として、賃金、労働時間その他の労働条件について、差別的取扱いをしてはならない。
2. 使用者は、労働者が女性であることを理由として、賃金について、男性と差別的取扱いをしてはならない。
3. 労働条件は、労働者と使用者が、対等の立場において決定すべきものである。
4. 使用者は、労働契約の不履行について違約金を定める契約をすることができる。

〔No. 23〕 次の記述のうち、「労働安全衛生法」上、**誤っているものはどれか。**

1. 事業者は、労働安全衛生法で定める公衆災害の防止のための最低基準を守るだけでなく、快適な生活環境の実現のため、労働者の適正な賃金を確保するようにしなければならない。
2. 労働者は、労働災害を防止するため、必要な事項を守るほか、事業者が実施する労働災害の防止に関する措置に協力するように努めなければならない。
3. 労働災害とは、労働者の就業に係る建設物、設備等により、又は作業行動その他業務に起因して、労働者が負傷し、疾病にかかり、又は死亡することをいう。
4. 建設工事の注文者は、施工方法、工期等について、安全で衛生的な作業の遂行を損なうおそれのある条件を附さないように配慮しなければならない。

〔No. 24〕 安全衛生教育に関する記述として、「労働安全衛生法」上、**定められていないものはどれか。**

1. 事業者は、労働者を雇い入れたときは、当該労働者に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない。
2. 事業者は、作業主任者を選任したときは、当該作業主任者に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない。
3. 事業者は、省令で定める危険又は有害な業務に労働者をつかせるときは、当該業務に関する安全又は衛生のための特別の教育を行わなければならない。
4. 事業者は、労働者の作業内容を変更したときは、当該労働者に対し、新たに従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない。

〔No. 25〕 次の記述のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」上、**誤っているものはどれか。**

1. 安定型産業廃棄物は、安定型最終処分場であれば、埋立処分を行うことができる。
2. 工作物の除去に伴って生じた木くずは、産業廃棄物である。
3. 建設発生土は、建設廃材等が混入していなくても、産業廃棄物である。
4. 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。

※ 問題番号〔No. 26〕～〔No. 35〕までの10問題は、全問題解答してください。

〔No. 26〕 工事契約後に現場で行う事前調査及び確認に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 地盤調査報告書はあったが、現場の地下水位の状況を確認した。
2. 地下埋設物に対する既存の図面があったが、事前に掘削調査を行った。
3. 鉄骨の搬入があるので、製作工場から現場までの搬入経路を調査した。
4. 工事予定の建物による電波障害に関する調査は済んでいたため、タワークレーン設置による影響の確認を省いた。

〔No. 27〕 仮設計画に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事用の事務所が、敷地に余裕がなく止むを得ず作業場から離れる場合には、作業場内に
出先連絡所を設ける。
2. 作業員詰所は、できるだけ工事用の事務所の近くで、連絡や管理がしやすい位置に設ける。
3. ゲートの位置は、前面道路の状況や場内動線等との関連を考慮して決定する。
4. 仮囲いは、工事現場の周辺の状況が、危害防止上支障がない場合であっても、必ず設ける。

〔No. 28〕 工種別施工計画書の作成に関する記述として、**最も適当なもの**はどれか。

1. いかなる工事においても、すべての工種について作成しなければならない。
2. 作成は、専門工事業者が行うべきものである。
3. 使用材料については、商品名、メーカー名などを使用箇所別に記載する。
4. どの工事にも使えるように、共通的な工法について作成する。

〔No. 29〕 建築工事の工程管理に関する用語として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. タクト手法
2. VE（バリュー・エンジニアリング）
3. CPM（クリティカル・パス・メソッド）
4. アロー型ネットワーク

〔No. 30〕 バーチャート工程表に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 工事を構成する作業を縦に列記し，工期の時間的経過を横軸にして表す。
2. 各作業の開始時期，終了時期及び所要日数を把握することができる。
3. 出来高の累計を重ねて表現すれば，工事出来高の進ちよく状況を併せて把握しやすい。
4. 各作業の順序関係を，明確に把握することができる。

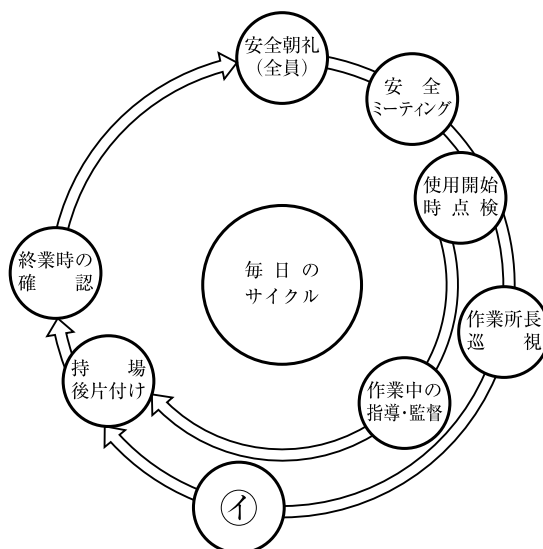
〔No. 31〕 施工品質管理表（QC工程表）の作成に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 検査の時期，頻度，方法を明確にする。
2. 管理項目は，重点的に実施すべき項目を取りあげる。
3. 管理項目は，施工の手順に沿って並べるのではなく，品質の重要度の高い順に並べる。
4. 管理項目ごとに，工事監理者，施工管理者及び専門工事業者のそれぞれの分担を明確にする。

〔No. 32〕 建築施工の品質に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 品質管理とは，品質計画に従って試験又は検査を行うことをいう。
2. 施工に伴い検査した結果を，次の計画や設計に生かす。
3. 施工に伴い欠陥が生じた場合，その原因を調べ，適切な処置を講ずる。
4. 施工の検査等に伴う試験は，試験によらなければ品質及び性能を証明できない場合に行う。

〔No. 33〕 図に示す毎日の安全施工サイクルにおいて、①に当てはまる語句として、最も適当なものはどれか。



1. 新規入場者教育
2. 安全工程打合せ
3. 安全衛生大会
4. 安全衛生教育

〔No. 34〕 鋼管足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 脚輪を取り付けた移動式足場は、脚輪を歯止め固定した。
2. 単管足場の脚部は、敷角の上に直接単管パイプを乗せて根がらみを設けた。
3. 止むを得ず架空電路に近接して足場を設けるので、架空電路に絶縁用防護具を装着する措置を講じた。
4. 足場全体を筋かいで補強した。

〔No. 35〕 現場の安全管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 掘削面の高さが2.0 mだったので、作業主任者を選任せずに地山の掘削を行わせた。
2. 作業中、作業主任者に保護帽及び安全帯の使用状況を確認させた。
3. 材料の揚重用リフトの運転についての合図を統一した。
4. 移動式クレーンのアウトリガーは、つり上げ荷重にかかわらず最大限に張り出すこととした。

□. 受検種別「建築」「躯体」

※ 問題番号〔No. 36〕～〔No. 50〕までの15問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

〔No. 36〕 やり方に関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 水杭は、根切りや基礎工事に支障がない位置に打ち込んだ。
2. かなな掛けを施した水貫の上端を基準に合わせて水平に取り付けた。
3. 水杭や水貫が動かないよう、筋かいを設けた。
4. 建物隅部のやり方は、平やり方とした。

〔No. 37〕 地盤調査に関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 平板載荷試験は、地盤の変形や強さなどの特性を調べるために行う。
2. 平板載荷試験の位置は、地盤の支持特性を代表しうるような場所とする。
3. ボーリングとは、各種の試験や試料採取などのために地盤を削孔することをいう。
4. 削孔内に地下水が認められた場合、直ちに測定した水位を地下水位とする。

〔No. 38〕 土工事に関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 機械式掘削では、一般に床付け面の近くでショベルの刃を平状のものに換えて、床付け面までの掘削を行う。
2. 法付けオープンカットにおいて、法面保護のため、法肩近くと法尻には側溝を設ける。
3. 床付け地盤が凍結した場合、良質土と置き換える必要がある。
4. 埋戻しに砂を用いる場合、粒子の径が均一なものが最も適している。

〔No. 39〕 山留め工事及び排水工法に関する記述として、**最も不適当なものはどれか。**

1. 鋼矢板工法は、軟弱地盤や地下水位の高い地盤に用いられる。
2. 水平切梁工法において、切梁の継手は、できる限り切梁の交差部近くに設ける。
3. 釜場工法とは、根切り底面に集水場所を設け、ポンプで排水する工法である。
4. ディープウェル工法とは、小さなウェルを多数設置し真空吸引して揚排水する工法である。

〔No. 40〕 既製コンクリート杭の施工法として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. プレボーリング工法
2. オールケーシング工法
3. 中掘り工法
4. 回転根固め工法

〔No. 41〕 鉄筋の加工及び組立てに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ガス圧接する鉄筋の圧接端面は、ガス切断を行ってはならない。
2. 鉄筋の組立ては、結束線などで結束し、点付け溶接としてはならない。
3. D41など径の大きな鉄筋の曲げ加工は、熱間加工とする。
4. フックの余長は、折り曲げ角度が大きいほど短くてよい。

〔No. 42〕 鉄筋工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄筋の定着長さ及び重ね継手の長さは、コンクリート強度によって異なる。
2. スラブ筋が複配筋の場合、原則として長辺方向の鉄筋は短辺方向の鉄筋の外側に配置する。
3. コンクリートを打設しながらの差し筋は避ける。
4. 鉄筋表面の油脂類、浮き錆は、コンクリート打込み前に除去しておく必要がある。

〔No. 43〕 型枠工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 内柱の型枠の加工長さは、階高からスラブ厚さとスラブ用せき板の厚さなどを減じた寸法より 25 mm 短くした。
2. 柱型枠には、清掃及び検査ができるように掃除口を設けた。
3. 木製のせき板に使用するはく離剤は、ワックス系のものを用いた。
4. コンクリート面に直接塗装仕上げを行うので、コーン付きセパレーターを使用した。

〔No. 44〕 コンクリートの調合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 単位セメント量が少ないほど，ワーカビリティがよくなる。
2. 単位水量の大きいコンクリートは，耐久性上好ましくない。
3. スランプの大きいコンクリートでは，細骨材率が小さ過ぎると分離しやすくなる。
4. AE剤を使うと，ワーカビリティが改善される。

〔No. 45〕 コンクリートの打込み及び締固めに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 壁への打込みは，打込み高さが均等になるように，まわし打ちを行った。
2. コンクリート内部振動機（棒形振動機）による加振は，コンクリート上面にペーストが浮くまでとした。
3. スラブの付いたせいの高い梁への打込みは，梁とスラブを同時に打ち込んだ。
4. 柱へのコンクリートの打込みは，縦型シュートを挿入して行った。

〔No. 46〕 鉄骨工事において，柱部分に取り付ける付属金物として，**最も不適当なもの**はどれか。

1. 鉄筋受けかんざし金物
2. エレクションピース
3. デッキプレート受け
4. 親綱取付け用フック

〔No. 47〕 鉄骨の建入れ直しに関する記述として，**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建入れ直しは，建方がすべて完了してから行う。
2. 建入れ直しを行ったものは，高力ボルト接合の場合，速やかに本締めを行う。
3. ターンバックル付き筋かいを有する鉄骨構造物では，その筋かいを用いて建入れ直しを行ってはならない。
4. 建入れ直しにワイヤロープを用いる場合は，必ず引きと返しのたすき掛けに張る。

〔No. 48〕 本工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. トラスなど同形のを多数工作する場合は、型板を用いて加工する。
2. 隣り合う根太は、継手位置をそろえて割り付ける。
3. 土台の据付けは、基礎天端にやり方から移した墨を基準とする。
4. 筋かいと間柱が交差する部分では、筋かいを欠き取ることをないようにする。

〔No. 49〕 建設作業とそれに用いる建設機械との組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 削 孔 ————— アースオーガー
2. 掘削・積込み ————— クラムシェル
3. 敷き均し ————— トレンチャー
4. 揚 重 ————— タワークレーン

〔No. 50〕 躯体工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 打込み時のコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲で定めた。
2. 型枠支保工のパイプサポートと補助サポートの継手は、差込み継手とした。
3. スラブ筋は、交差する鉄筋相互の交点の半数以上を結束した。
4. 鉄骨柱脚のアンカーボルトの定着長さを、フックの部分を含んだ長さとした。

ハ. 受検種別「建築」「仕上げ」

※ 問題番号〔No. 51〕～〔No. 65〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

〔No. 51〕 アスファルト防水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルトプライマーは、ローラーばけを用いて、均一に塗り付けた。
2. アスファルトルーフィングの張付けは、アスファルトプライマーの塗付け後、直ちにを行った。
3. 保護コンクリートは、普通コンクリートを用いた。
4. アスファルトの溶融温度の上限を、アスファルト製造所の指定する温度とした。

〔No. 52〕 壁タイルの種類とタイル張り工法の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1. 25 角モザイクタイル ————— 密着張り工法
2. 100 角内装タイル ————— 接着剤張り工法
3. 二丁掛外装タイル ————— 改良圧着張り工法
4. 四丁掛外装タイル ————— 改良積上げ張り工法

〔No. 53〕 屋根葺工法とその取付けに用いる金物の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1. 銅板製重ね形折板葺 ————— フックボルト
2. 大波スレート板葺（繊維強化セメント板） ——— チャンネルボルト
3. 銅板平葺 ————— ステンレス釘
4. 心木なし瓦棒葺 ————— 通し吊子

〔No. 54〕 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. スタッドには、床ランナーの下端から 1,200 mm 間隔で振れ止めを設けた。
2. ボード 1 枚張りであったので、スタッドの間隔を 450 mm とした。
3. 曲面の壁に使用するランナーは、あらかじめ工場でアール加工されたものを使用した。
4. 溶接した箇所には、錆止め塗料を塗布した。

〔No. 55〕 コンクリート面の仕上塗材仕上げにおける下地調整に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 仕上塗材の下地への付着力を確保するため、セメント系下地調整塗材を使用した。
2. 下地面を平滑にするため、セメント系下地調整塗材をコンクリート面全面に塗り付けた。
3. 厚付け仕上塗材の下地調整は、目違いをサンダー掛けで取り除くことができたので、下地調整塗材塗りを省いた。
4. 外装厚塗材C（スタッコ状）仕上げであったので、合成樹脂エマルション系下地調整塗材を使用した。

〔No. 56〕 アルミニウム製建具に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. モルタルに接する箇所には、耐アルカリ性の塗料を塗布したものを使用した。
2. 建具は木製くさび等を用いて仮止めし、建具のアンカーをコンクリートに埋込まれたアンカーに溶接した。
3. 引違い建具のすれ合う部分や振れ止め、戸当たりの類は鋼製とした。
4. 建具隅部の小ねじ留めの位置は、水が溜まりやすい部分を避けた。

〔No. 57〕 錠とその使用箇所の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. かぎ付クレセント錠 ————— 外部に面する引違いサッシ
2. 表示錠 ————— 便所片開き戸
3. シリンダー箱錠 ————— 外部に面する片開き戸
4. かま錠 ————— 洋室両開き戸

〔No. 58〕 合成樹脂エマルションペイント塗りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. はけ塗り、吹付け塗り、ローラーブラシ塗りが可能である。
2. 溶剤を用いないので、大気汚染の危険性が少ない。
3. 鉄鋼面や亜鉛めっき鋼面の塗装に用いられる。
4. 下塗り後の標準工程間隔時間は、合成樹脂調合ペイントより短い。

〔No. 59〕 塗装工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. リムーバーは、塗膜をはがすのに用いられる。
2. スクレーパーは、鉄面の汚れ、付着物の除去に用いられる。
3. 防火材料の指定がある場合は、基材同等の認定を受けた塗料を使用しなければならない。
4. 上塗り塗料は、原則として工事現場で調合したものを使用する。

〔No. 60〕 内装木工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリート床に取り付ける転ばし大引のアンカーボルトは、あと施工アンカーとした。
2. 転ばし大引の継手は、相欠き継ぎとした。
3. 敷居、鴨居の溝じゃくりは、木裏側に行った。
4. 湿気のおそれのあるコンクリート壁面であったので、木れんがの取付けに用いる接着剤は、エポキシ樹脂系とした。

〔No. 61〕 床仕上げに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ビニル床材のワックス仕上げでは、水性ワックスを用いる場合、塗布するだけでよく、電動ポリッシャーを掛ける必要はない。
2. 合成樹脂塗り床のノンスリップ仕上げにおいて、骨材を散布する場合は、塗布したペーストの表面が未硬化の状態のうちに行う。
3. 弾性ウレタン塗床材を立上り部に施工する場合、だれを生じないように粘度を調節したペーストを用いる。
4. カーペットの置敷き工法は、一般に、既に床仕上げがなされている部屋に敷かれるもので、中敷きやピース敷きがある。

〔No. 62〕 内装工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 断熱材をコンクリートに打ち込む場合、断熱材の継目は、型枠の継目を避けて割り付けた。
2. 天井のロックウール化粧吸音板の目地は、捨張り材の目地と重ならないように張り付けた。
3. 合成樹脂塗床材の塗重ねは、先に塗布した塗膜が完全に硬化してから行った。
4. ゴム床タイルの張付けは、ゴムづちでたたいて圧着した。

〔No. 63〕 カーテン工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 防災加工されたカーテンは、洗濯方法と防災再処理の必要度の違いにより種類分けされている。
2. ケースメントカーテンは厚地であり、遮光、遮へい、保温、吸音などの目的で用いられる。
3. 遮光用（暗幕用）カーテンの下端は、窓枠下がり 400 ～ 500 mm 程度長く仕上げる。
4. カーテンボックスの幅は窓幅に対して、一般に片側各々 100 ～ 150 mm 程度伸ばす。

〔No. 64〕 仕上工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アルミニウム製建具のガラスの留付けには、2 成分形シリコーン系シーリング材を用いた。
2. 防水層保護コンクリートの伸縮目地に用いる既製目地材の下に、モルタルを全長にわたり敷き込んで、据付け高さの調整を行った。
3. 木製建具工事では、フラッシュ戸の反りが発生しないよう、表と裏の面材は同一のものとした。
4. 床端部とカーテンウォールの層間ふさぎに、ロックウールを用いた。

〔No. 65〕 各仕上工事とそれに用いられる部品や材料の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. カーテン工事 ————— ランナー
2. シーリング工事 ————— タッセルバンド
3. 塗装工事 ————— プライマー
4. ガラス工事 ————— グレイジングガスケット

二. 受検種別「躯体」

※ 問題番号〔No. 66〕～〔No. 80〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

〔No. 66〕 墨の呼び名とその説明の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1. 親 墨 ————— 基準となる墨
2. 逃げ墨 ————— 基準になる線より一定の距離をおいて平行に付けた墨
3. 地 墨 ————— 床面に付けた墨
4. 陸 墨 ————— 垂直を示すために付けた墨

〔No. 67〕 埋戻しに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 根切り土を埋戻しに使用する場合は、根切り土の中の良質土とし、転圧、突固めなどを行う。
2. 土間下の埋戻しにおいて、基礎梁や柱などの周囲や隅角部は、タンパーなどを用いて十分締固めを行う。
3. 埋戻し部分にある木製型枠材は、腐食により地盤沈下を生じるので取り除く。
4. 埋戻しに粘性土を用い締固めを行う場合は、砂質土で水締めを行う場合より余盛り量は少なくなる。

〔No. 68〕 山留め工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 親杭横矢板工法は、止水性を必要としない山留め工事に用いられる。
2. アイランド工法は、平面規模が小さくて深い根切りに適している。
3. 逆打ち工法では、地下の構造体を山留め支保工として利用する。
4. 地盤アンカー工法は、偏土圧となる傾斜地の山留め工事に適している。

〔No. 69〕 場所打ちコンクリート杭工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. アースドリル工法では、ケーリーバーの鉛直性を直交する2方向よりトランシット又は下げ振りなどで確認する。
2. コンクリート打設開始前に、トレミー管にブランジャーを入れておく。
3. 杭頭の余盛りの高さは、除去処理がしやすいように50 cm未満とする。
4. コンクリート打設中のトレミー管の先端は、コンクリート中に2 m以上入っているように保持する。

〔No. 70〕 鉄筋工事に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. かぶり厚さは、鉄筋の中心からコンクリートの表面までの距離で確認した。
2. 屋内の非耐力壁は、床スラブと、最小かぶり厚さを同じ値とした。
3. かぶり厚さを確保するため、スペーサーの個数と配置を確認した。
4. 結束線の端部は、腐食及び危険防止のために内側に折り曲げた。

〔No. 71〕 鉄筋の継手及び定着に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 柱主筋の重ね継手が隣り合う場合は、継手位置をずらして設ける。
2. 異形鉄筋の場合、定着長さの算出に用いる鉄筋径 d は、鉄筋の公称直径を用いる。
3. 大梁の上端筋の継手位置は、スパンの中央部とする。
4. 径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の鉄筋の径によって算出する。

〔No. 72〕 コンクリート打設時に、型枠に作用する荷重に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリートは流動性があるので、側圧はコンクリートと同じ高さの水があるものとして算定する。
2. コンクリートの温度と気温が高ければ、側圧が減少する。
3. 検討する水平方向の荷重には、コンクリート側圧のほかに、風圧、コンクリート打込み時の偏心荷重などがある。
4. スランプの大きいコンクリートの方が、側圧は大きくなる。

〔No. 73〕 型枠の取外しに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 片持ち梁や底の支柱は、必要に応じて存置期間を延長した方がよい。
2. せき板の最小存置期間は、コンクリートの材齢による場合、梁下よりスラブ下の方が長い。
3. 基礎と柱のせき板の最小存置期間は、同じである。
4. 壁付梁の梁下の支柱は、壁を支柱とみなし、せき板と同時に取り外すことができる。

〔No. 74〕 コンクリートの打込み及び締固めに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリートは、打込む場所へできるだけ近づけて垂直に打ち込む。
2. コンクリート内部振動機（棒形振動機）の挿入間隔は、60 cm 以下とする。
3. 輸送管の径は、粗骨材の最大寸法の 4 倍以上のものを使用する。
4. コンクリートの圧送に先立って用いる先送りモルタルは、貧調合のものとする。

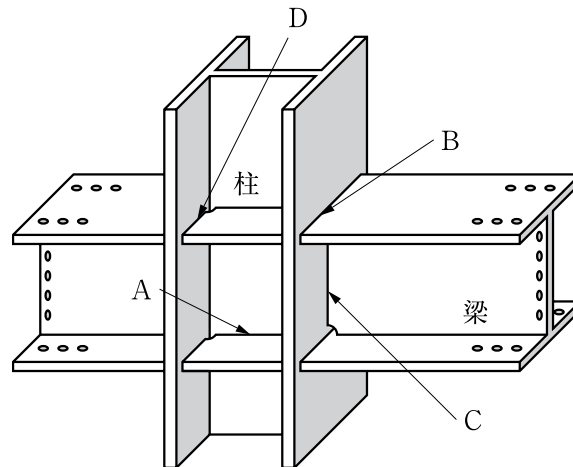
〔No. 75〕 コンクリート工事における養生に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 打込み後のコンクリートには、直射日光による乾燥を防ぐための養生を行う。
2. 普通ポルトランドセメントを用いたコンクリートの場合、寒冷期においては、打込み後5日間以上はコンクリートの温度を 2℃ 以上に保つ。
3. コンクリートの打込み後、少なくとも 1 日間はその上で作業してはならない。
4. 高炉セメントを用いる場合の湿潤養生の期間は、普通ポルトランドセメントを用いる場合より短くてよい。

〔No. 76〕 鉄骨工事に用いる高力ボルト接合に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. トルシア形高力ボルトの本締めは、ピンテールが破断するまで締め付ける。
2. 部材接合面のはだすきが 1 mm 以下の場合、フィラーは不要である。
3. 高力ボルトの頭部又はナットと接合部材の面が、 $\frac{1}{20}$ 以上傾斜している場合は、勾配座金を使用する。
4. 摩擦面のブラスト処理は、サンドブラストで行う。

〔No. 77〕 図に示す柱梁接合部の一般的な溶接法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。



1. A部（柱ウェブと補強プレートとの接合部）を隅肉溶接とした。
2. B部（柱フランジと梁フランジとの接合部）を隅肉溶接とした。
3. C部（柱フランジと梁ウェブとの接合部）を隅肉溶接とした。
4. D部（柱フランジと補強プレートとの接合部）を完全溶込み溶接とした。

〔No. 78〕 建設機械に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 振動コンパクターは、機械本体をはね上げて、落下する衝撃により地表面を締め固める機械である。
2. 建設用リフトは、荷のみを運搬することを目的とするエレベーターである。
3. ロングスパン工事用エレベーターは、人荷共用の荷台の長いエレベーターのことである。
4. 移動式クレーンは、原動機を内蔵し、不特定の場所に移動させることができるクレーンのことである。

〔No. 79〕 あと施工アンカー工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. はつり出し面や目荒らし面に施工する場合、穿孔深さはそれらの底面を基準として穿孔する。
2. 規定の穿孔深さを確保するため、ドリルに穿孔深さを示すマーキングを施す。
3. 金属拡張アンカーは、一般に接着系アンカーに比べ、高い引張耐力がある。
4. あと施工アンカーは、曲げが加わると一般に引張耐力は低下する。

〔No. 80〕 補強コンクリートブロック工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 充填コンクリートは、ブロック 2 段ごとに突き棒で突き固めた。
2. がりょうのすぐ下は、横筋用ブロックを使用してコンクリートの打込みを行った。
3. 1 日の積上げ高さは、1.6 m とした。
4. フェイスシェル厚の厚い方を下にして積んだ。

ホ. 受検種別「仕上げ」

※ 問題番号〔No. 81〕～〔No. 95〕までの 15 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。

〔No. 81〕 合成高分子系ルーフィングシート防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ALCパネル下地への接着工法だったので、パネルの短辺接合部の目地部に、絶縁用テープを張った。
2. 塩化ビニル樹脂系シート防水において、接合部の重ね幅は縦横とも 40 mm 以上とした。
3. 加硫ゴム系シート防水の接着工法において、平場と立上りとの接合幅は、100 mm 以上とした。
4. 塩化ビニル樹脂系シートの張付けは、接着剤のオープンタイムの範囲内で行った。

〔No. 82〕 壁タイル張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 改良積上げ張り工法では、1 日の張付け高さを 1.5 m 以内とした。
2. 壁タイル接着剤張り工法では、接着剤はタイル面に塗布した。
3. 下地材料が異なっていたので、その境界線の位置に伸縮調整目地を設けた。
4. 気温が 2℃ 以下になるおそれがあったので、タイル張り施工を中止した。

〔No. 83〕 長尺金属板葺屋根工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. はぎ合せは、こはぜ掛けとし、こはぜの掛かりや折返しなどの幅は、15 mm 程度とした。
2. 亜鉛めっき鋼板は、切れ目を入れずに折り曲げた。
3. 軒先包み板の留付けには、通し付け子を用いた。
4. 下葺のアスファルトルーフィングを留めるステーブル釘の間隔は、できるだけ密にした。

〔No. 84〕 軽量鉄骨天井下地に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 天井のふところが 1,800 mm であったので、吊りボルトの振れ止め補強を行った。
2. 野縁は、野縁受けからのね出しを 200 mm とした。
3. 吊りボルトの取付け用インサートは、銅製のものを使用した。
4. 天井下地は、部屋の中央部が高くなるよう、むくりをつけて組み立てた。

〔No. 85〕 仕上塗材と下地に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. けい酸カルシウム板下地に、外装セメント系厚付け仕上塗材(外装厚塗材C)を用いた。
2. 押出成形セメント板下地に、反応硬化形合成樹脂エマルション系複層仕上塗材(複層塗材RE)を用いた。
3. ALCパネル下地に、合成樹脂エマルション系複層仕上塗材(複層塗材E)を用いた。
4. せっこうボード下地に、内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材(内装薄塗材E)を用いた。

〔No. 86〕 鋼製建具に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 丁番、ドアクローザーの取り付け箇所には、裏面に補強板を取り付けた。
2. 建具側のアンカーは、枠のつなぎ補強板と一体のものとした。
3. 防火戸にがらりを設けるため、がらり面には防火ダンパーを設置した。
4. 外部に面するステンレス製くつずりは、両端を縦枠内に納め、枠の裏面で溶接した。

〔No. 87〕 建具にはめ込むガラスのエッジクリアランスが必要な理由として、**最も適当なもの**はどれか。

1. 地震の際、ガラスとサッシ枠が接触してガラスが割れるのを防ぐ。
2. 強風の際、ガラスが割れるのを防ぐ。
3. ガラスが枠からはずれるのを防ぐ。
4. ガラスとサッシ枠の取合い部分の水密性を高める。

〔No. 88〕 塗装工事の素地ごしらえに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. ALCパネル面の吸込止め処理に、合成樹脂エマルションクリヤーを用いた。
2. 鉄鋼面の錆及び黒皮の除去に、サンドブラスト法を用いた。
3. けい酸カルシウム板の吸込止め処理に、反応形合成樹脂ワニスを用いた。
4. 水がかり部の壁モルタル面のパテかいに、合成樹脂エマルションパテを用いた。

〔No. 89〕 本部のクリヤラッカー塗りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 塗料の希釈には、ラッカーシンナーを用いた。
2. 目止め剤として、との粉を用いた。
3. 下塗りには、ジンクリッチプライマーを用いた。
4. 相対湿度が80%以上であったので、クリヤラッカーの塗装作業を行わなかった。

〔No. 90〕 熱溶接工法によるビニル床シート張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. シート張付け後、直ちに継目の溝切りを行った。
2. 継目の溝切りはV字型とし、シート厚の $\frac{2}{3}$ 程度まで行った。
3. 熱溶接機を用いて、シートと溶接棒を同時に熔融し、加圧しながら溶接した。
4. 溶接棒は、床シートと同じ材質のものを用いた。

〔No. 91〕 カーペット敷きに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. グリッパー工法では、下敷き用フェルトはすき間なく敷き込み、要所を接着剤又は釘で留め付ける。
2. ヒートボンド工法によるカーペットの接合は、接着テープを用いてアイロンで加熱し圧着する。
3. 全面接着工法では、ニーキッカーを用いてカーペットを十分伸張させながら張り付ける。
4. OAフロアにタイルカーペットを敷き込む場合、再接着性のある接着剤を用いる。

〔No. 92〕 壁せっこうボード張りに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 洗面所の壁下地として、シージングせっこうボードを使用した。
2. 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの頭は、ボード面に沈むまで十分締め込んだ。
3. 突付けジョイント部の目地処理の幅は、テーパーボードのテーパー部では200～250 mm程度とした。
4. 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの留付け間隔は、中間部、周辺部ともに300 mm程度とした。

〔No. 93〕 電算機室用フリーアクセスフロアに関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. パネル支持脚に、電気亜鉛めっきの防錆処理を行った鋼材を使用した。
2. 高さ調整方式だったので、仕上面の水平精度は、完成時床パネル相互間の段差 3 mm 以内とし、かつ 3 m 当たりの不陸を 7 mm 以内とした。
3. パネルの寸法精度は、各辺の長さが 500 mm の場合、幅及び長さを ± 0.5 mm 以内のものを使用した。
4. 仕上げレベルの調整を行うことができるよう、独立支柱タイプのものを使用した。

〔No. 94〕 外壁に用いる押出成形セメント板に関する記述として、**最も不適当なもの**はどれか。

1. パネル横使いスライド工法において、パネル積上げ枚数 2 ～ 3 枚ごとに自重受け金物を取り付けた。
2. 幅 600 mm のパネルを欠込む場合、欠込み幅は 300 mm 以下とした。
3. パネル縦使いロッキング工法の場合、パネル間の縦目地は伸縮目地とし、その目地幅は 5 mm とした。
4. タイルをモルタルで張り付ける場合は、パネル表面にあり溝を施した専用パネル（タイルベースパネル）を用いた。

〔No. 95〕 外部仕上げの劣化とその改修工法の組合せとして、**最も不適当なもの**はどれか。

1. シーリングの劣化 ————— ブリッジ工法
2. タイルの浮き ————— Uカットシール材充填工法
3. スチールサッシの老朽化 ————— かぶせ工法
4. モルタルの浮き ————— アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法